
よくわかる戦術的魔術運用論1

餓鬼

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

よくわかる戦術的魔術運用論 1

【Nコード】

N 8 7 0 8 L

【作者名】

餓鬼

【あらすじ】

リアル系ファンタジー小説を書こうかなと思っていらっしやる方々にぜひとも読んでいただきたい考察です。（個人的な願望込み）文字数が少ないので、時間もかかりませんよ。

（前書き）

このページを開いてくださってありがとうございます
本文が妙にえらそうな口調なのは、ファンタジーな世界で昔の学者
さんが書いたみたいないメージで執筆したからです。
そういうイメージで読んでください

本書は、様々な魔術の使える世界においての魔術運用論について筆者が独自に考察したものである。

よって本書の内容は信頼性がなく、考え方の一つとして理解していただきたい

*

1. まず、戦闘になった際に大切なことは致命傷を受けないことだ。
死ななければ戦うことも逃げることも成功率はおいといて可能であるからだ。

では、致命傷とは何か。敵前で腕も足も使えなければ、それは死と同意だろう。

よって致命傷を受けないためには一時的な行動不能や戦闘に支障の出る負傷をしないこと。

そのためには……などと続けているとキリがないが、相手の思い通りの攻撃を一撃食らえばそれだけでかなりのアドバンテージになってしまう。最終的には小さな負傷さえ大きな影響が出る、それが一般的な戦いである。

2. しかし、魔術のある世界にはお決まりの化け物がいる。人間相手なら先ほどの通り一発斬れば殺せるし普通は豆食べただけで完全回復なんてことはない。だが、ただの熊でさえ普通の拳銃程度ではなかなか死なないと聞く。もっと恐ろしい化け物はいくらでもいる、というのにだ。

では化け物代表のドラゴン为例に挙げてみよう。ありとあらゆるドラゴンについての記述を目に通したが、大抵単純な物理攻撃などには意にも介さない。

そもそも、体のサイズが大きすぎるので剣ぐらい丸ごと刺さってもたいした負傷にはならないのだ。

要するに、軍隊丸ごと総動員で針でも刺すようにして殺してもいいが、それでは装甲車相手に斬りあいを挑むようなものでまったくいいほど効率的でない。

3. さて、ここに到るまでに頭脳明晰な読者の方々は大体わかっていらつしやると思うが、タイトルの内容をほとんど口にしないのはいささか気が引けるので結論をまとめさせていただこう。攻撃のための魔術の運用は二パターンに分かれるだろう。

一方は素早く発動し相手の隙を作ったり手足を傷つけたりする魔術。

もう一方は準備に時間が必要としても威力において十分な信頼を置ける魔術。

もちろん、人並みはずれた技術を持つなら素早くなおかつ必殺の威力を持つ魔術を放てばいいが、残念ながらこれは一般的な運用についての考察である。

終わりに。今後機会があれば、また様々な魔術運用について考察をさせていただこうと思っている。もし、何か少しでも気になることがあつたら質問していただけるとありがたい。微力ながら解決に

尽くさせてもらおう。

（後書き）

お読みいただき誠にありがとうございます。

どんな感想でも絶賛受付中です。

文章力の問題で口調がおかしいかもしれません。いかなるささいな指摘もウェルカムです。

エッセイってこういう文章の事いunnoですね。いま調べて知りました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8708/>

よくわかる戦術的魔術運用論1

2010年10月8日15時14分発行